

| | |
|---------|---|
| 事業名称 | STAY LOCAL～地域のレジリエンスを高める「城の西 みらい構想」実現事業 |
| 団体名・代表者 | 城の西エリアマネジメント準備会 代表世話役 米谷啓和 |
| 協働の相手方 | 公園部、産業振興課、市民活動推進課、城西地区地域自治会、兵庫県立大学地域創造機構、NPO 法人スローソサエティ |

| | |
|-------|--|
| 目的 | 過度の都心依存を改め、地域が自立して住民が暮らしていける半径 1 kmのまちづくり STAY LOCAL をめざし、〈城の西〉エリアをそのモデル地域として、社会・環境・経済のエコシステムの確立をはかる。地域の経済循環をまわすための既存資源の掘り起こしと小商いのスタートアップ、公園・広場、公民館など公共空間を社会包摂の場として再定義し、暮らしの場としての自然環境の再生や休眠空間の活用をはかる。 |
| 内容 | <p>(1)「経済のエコシステム×「LIFE 暮らし」」:</p> <p>①「城の西 ウォーキング」の実施・「城の西まぐま」・ローカルマルシェ開催・聞き書き</p> <p>②若い人たちが〈城の西〉で商売を小さく始めるスタートアップ支援</p> <p>(2)「環境エコシステム×「LIFE 命」」:</p> <p>①循環のあるエディブルパークづくりの実施</p> <p>②「船場川のひみつを探れ」の実施、「川遊びガイドブック」の制作・オンライン配布</p> <p>③「三浦豊さんと歩く城の西」の継続実施と「ガイドブック」の作成・オンライン配布</p> <p>(3)「社会エコシステム×「LIFE 一生」」:</p> <p>①「城の西フォーラム オンライン」の実施</p> |
| 事業経過 | 通年：御前山広場で小さな循環づくり、地域スポーツ、ヘッセドのマルシェ開催協力 8月：「モンデ茶屋・ハニーマルシェ」実施 9月：「グリーンウォーキング」実施 10月：「船場川のひみつを探れ」実施 3月：「城の西 森ものがたり」「船場川のひみつを探れ」「城の西ステイサイト」「城の西みらい構想提言書」作成 |
| 事業の効果 | コロナ禍が収まることなく一年が過ぎた。その中でできる STAY LOCAL モデル地域として、デジタルトランスフォーメーションを活用し、城の西とゆかりがあるが、城の西まで行くのが遠いという人にも情報を届けるチャンスが広がり、新たな情報配信方法の選択肢を増やした一年となった。感染予防という理由で人と人とのふれあいが減る中、人の温度を感じられる情報配信は人を優しくし、人の暮らしを豊かにするものであることを再確認した。 |
| 今後の展望 | 物の豊かさ、所有の豊かさはこれ以上必要ではない。これからは経済だけではなく、人間性や暮らしの楽しさ、やりがい、生きがい、五感を通して味わう体験などに価値があり、それが、城の西の未来へつながっていく。実際の城の西のリアルでいえば、丘・山・川・公園などは地域のコモنز（共有地）であり地域の資源である。その豊かさが地域や生活の豊かさであり、それがどれだけみんなが守り育てているのかということ意識した活動を進めていきたい。 |

【実施団体の事業総括・感想等】

| |
|--|
| <p>地方へ人が動き、オンラインでテレワークをする時代となり、受け入れる地方がブラッシュアップしていく必要があるという気づきがあった。例えば、自治会の行事ごとにしても、例年通りのやり方には限界があり、コロナをきっかけにして、ゼロベースで考えなおすチャンスのある年であり、縦のつながりから、横のつながりになるように、地域と協力していく必要性をますます感じられる一年となった。</p> |
|--|

【協働の相手となった所管課の感想等】 ※実施団体は記入しないでください

| |
|---|
| <p>【公園部】</p> <p>「御前山広場で小さな循環づくり」の取組みにおいて、小さな子供から高齢者まで、多世代による落ち葉収集と腐葉土づくり、清掃活動後に輪投げ大会などのスポーツイベントを実施するといった、自分達の公園という意識を持って公園の利用と管理のルールづくりが出来つつあると思う。このような地域による公園利用と樹木管理の取組みは、公園部で昨年度から始めた姫路市パークマネジメントプラン実践の取組みに大いに参考となった。</p> <p>【産業振興課】</p> <p>コロナ禍において、起業・創業を希望する方にとって様々な課題がある中、地域のつながりを結</p> |
|---|

ぶ、または強化することにより、機運を高め事業拡大にもつながり、地域も活性化していくものと考えます。また、地域資源や公共空間を活用して地域内経済の好循環を生み出していくことは、地域が主体となったまちづくりを進めるうえで重要なことであるため、当事業のような取組みを今後も継続してもらいたい。

【市民活動推進課】

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、実施が難しい事業等もあったかと思うが、「城の西フォーラム」のオンライン実施やホームページ「城の西まぐま」の作成等、新たな情報配信手段も使い、工夫をして事業を実施していただいた。

コロナ禍において、さらに生活様式の多様化が進む中、地域の資源を活かしながら、地域の繋がりや自立性に富んだエリアマネジメントシステムを構築していく手法は、市としても、今後の地域運営組織の在り方を考える上で参考としたい。